



～ 地域の防災上の特徴を知るために ～

御嵩町の亜炭鉱廃坑及び防災モデル事業を視察（平成28年8月9日実施）

新丸山ダム工事事務所では、事業地周辺の八百津町や御嵩町が被災した場合などに、緊密な連携体制や有効な支援が行えるように「合同防災関係等会議」を行っています。

その一環として、御嵩町の防災上の特徴を知るため、亜炭鉱廃坑や、廃坑の空洞を埋める「南海トラフ巨大地震亜炭鉱跡防災モデル事業」の視察を行いました。

亜炭鉱廃坑は、地表から10m程度の深さに、私たちの身長の数倍もある高さの穴が迷路のように掘られていることに驚きました。また、防災モデル事業では、町民の方々の生活に与える影響を少しでも減らせる努力をしながら工事を進めていることを知りました。

地下に残るこのような廃坑（空洞）は、地表では存在していることも分からないことから、改めて廃坑を対策する必要性、重要性を考えさせられる視察となりました。



防災モデル事業の概要説明



廃坑に充填するための材料や配合プラントの視察